

磐城時報

八夕 日刊

編集者 島田 弘成
印刷所 磐城時報印刷局
発行所 磐城時報印刷局
電話 一三三三
代金 一月五元
廣告料 一行十四字 五拾銭
日刊 (日曜、祭日) 休刊

今曉立町の火事 六棟十三戸焼く 損害約五千圓の見込

八日午前二時二十分平町立町九番地東日雇業長堀長吉(正木廣造方借家人)方附近から發火し表通りの理髪店若松徳彌方に延焼し忽ち火は四方に廣がり同町八番地、九番地、十番地内の三棟七戸を全焼、二棟六戸を半焼して三時半鎮火した。罹災者左の如く損害約五千圓の見込みである。

▲全焼 理髪業者若松徳彌、材木商木村(三)は右手を負傷した。

▲半焼 銀治職川崎幸治、豆腐屋古川清七、日雇業鈴木のぶ、同根清之助、外空家一棟

▲負傷者を出し 八日拂曉平町六丁目出火の際同町長堀(五)は背部に火傷を負ひ、又同町八十八番地橋八

發火の原因 愈々不審となる

發火の原因については平警察署今明中に詳細な原因が判明する員が直ちに駆けつけ實地につきまてあらうと察せられてゐる。調査した上關係者多數を平署に召喚取調べを行つてゐるが、發火の時刻その他各方面の事情を綜合し全く不審の点あり、更に石城郡湯本町出身日清、日露の調査を進めた處附近一帶の家屋戦役を始め北清、天津ンペリヤには數千圓の火災保險がつけて等の各事變に出征した當時一騎調査せねばならぬ事情もあり平組織會長に歩兵伍長で功七級を署は俄然色めき八日早朝から夫々手分けして精査中であるから國思想の普及から出征家族の慰

湯本在郷軍人 古兵會組織

湯本在郷軍人古兵會組織の組織は、石城郡湯本町出身日清、日露の調査を進めた處附近一帶の家屋戦役を始め北清、天津ンペリヤには數千圓の火災保險がつけて等の各事變に出征した當時一騎調査せねばならぬ事情もあり平組織會長に歩兵伍長で功七級を署は俄然色めき八日早朝から夫々手分けして精査中であるから國思想の普及から出征家族の慰

馬車にひかる 平驛前

平町鎌田町片寄のふ子(一八)は八日午後二時半頃平驛前で自動車に驚いた荷馬車に右足を轢かれ市原醫院で加療中である。

郡山驛午後八時列車を 平驛まで運轉の運動

石城町村長會で決議し 三代議士の應援を仰ぐ

磐城東線午後八時郡山發上り最難難である、しかも午後終列車が小野新町までしか運轉されないの石城地方の人は福島方面に所要の場合、殊に町村五分に乗りなれば歸平出來ず理事者、諸官衙役人等は著しく交通機關として極めて利便が少不便を感じ、この列車の平まで運轉延長を過般懇々主務省に陳情してゐるが未だに實現しないので、この程再び石城町村長會で決議し今回偶々同郡から三代議士を出すに至つたのでこれを機會に應援を得向縣の助力を得て大々的に目的貫徹の運動を起す事となつた、福島へ日歸する六日午後九時頃石城郡小名濱町に海岸を二人の幼児を連れて徘徊駐在巡査が発見取調へる

郡南方部 教育總集會

石城郡第一區教育總集會は七日午前十時より植田小學校内に開催、會務報告の後左記會員の研究發表あり午後一時より外務省事務官佐藤忠雄氏の「國際政局上より見たる日支事件」と題する講演あり聴衆に多大なる感動を與へ午後四時半盛況裡に散會した。

磐城炭礦で 出征兵の家族救濟

現金、物品を給與し 住宅、電燈料は無代

磐城炭礦では同礦従業員の出征兵家族慰問方法につき協議中であつたが、家族に對しては毎月毎に現金或は物品を給與し、又出征した爲め働く者がない家族に對しては住宅は勿論電燈及衛生費等は全部無料提供し更に出征兵から凱旋した場合は疾病不具者でない限り復職せしむる事に對する卑見(錦校)海野野男井正(綴方教育の私考)入遠(炭礦界に一大センセーションを捲き起した)。

▲私の試みて来た体操(植田) 渡邊彌平 ▲職業指導に就て(勿來) 鈴木俊男 ▲農村体育に對する卑見(錦校) 海野野男 ▲勞作教育に就て(山田) 酒井正(綴方教育の私考) 入遠(炭礦界に一大センセーションを捲き起した)。

▲綴方教育の私考(入遠) 炭礦界に一大センセーションを捲き起した。

▲綴方教育の私考(入遠) 炭礦界に一大センセーションを捲き起した。

小野田炭礦で 家族を救濟

赤井嶽藥師祭典

磐城炭礦と特別の關係にある磐城村小野田炭礦では従業員の出征軍人三名の家族に左の如く現金を支給救濟する事になつた。

▲赤井嶽藥師祭典 赤井村赤井嶽常福寺の祭典は六日執行されたが本年は日支事變のため祈願者頗る多く七百六十名の多數であつた。

放埒な夫に 愛想をつかした親子

駐在巡査に救ける

六日午後九時頃石城郡小名濱町に海岸を二人の幼児を連れて徘徊駐在巡査が発見取調へる

技術方面の 希望者が多い

本年の就職希望 平職紹介所では今春集立つ児童の就職希望者に對しては各聯絡を執り社會へ踏み出す第一歩をより正しく朗かな氣持で就職させるべく求人開拓に努力を拂つてゐるが、主に技術方面の希望者が多く、いたいけな児童にも實質的に進む傾向が窺はれる。平町丸はん家具店では今春卒業の十五六歳のもの店員五名、木工五名、西洋塗家具仕上三名、椅子張一名の各見習工十四名を新規募集中で申込締切は三月末日である。

共同販賣

石城郡炭輪、永戸、澤渡各村方面の木炭生産額は一ヶ年十五萬に達してゐるが、販賣方法が統一を欠いてゐるため生産者の損失莫大であるのを憂へ箕輪村大和田象雄氏は共同販賣を計るを勧誘中である。大和田氏は「東京の商人と契約し共同販賣を行へば現在より一俵につき五圓内外宛利益が多くなる。即ち全部で七千五百圓の利益があるわけでこの計劃は農村救済策として當を得たものと思ふ。」

三代議士の 選舉費用

▲三區に於て當選した衆議院議員三氏は左の如く選舉に要した費用を届け出た。

- ▲佐藤 六千八百八圓六十四錢
- ▲鈴木 六千四百三十八圓八十錢
- ▲比佐 三千四百五十四圓二十錢
- ▲氏家 五千二百七十圓四十一錢

「勿來小唄」

石城郡勿來町金子彦太郎君は小唄研究家として勿來小唄を作り同町小學校では之を採用されてゐるが、更に勿來紹介に印刷し各府縣遊覽者に配布する由である。

一、櫻散る / 古關の棚に
ヨイトナ
赤い手柄の駒足いざむ
ヨイトナ
二、佛具飾々黄金の林
ヨイトナ
照る日雲の日黄金の煙
ヨイトナ
三、千鳥はる / 潮時たより
ヨイトナ
磯に花咲く船足にふる
ヨイトナ
四、勿來尋ねて十日は夢よ
ヨイトナ
淡い涙の別れの雨か
ヨイトナ
洋服を盗む 當時住

▲洋服を盗む 當時住 所不定無職南會津郡北村生窃盗前科三犯目黒平三郎(三七)は去る三日石城郡好間村古河炭礦發電所で黒サージ洋服を窃取した外十数件の窃取が判明し平署に捕はれた。

着衣が燃ゆ 幼児死

石城郡内郷村大字宮字宮澤金吉長男高橋慶治(四ツ)は五日午前九時頃附近佐藤末一郎方で子供数名と遊んでゐるうち温の火が衣類に燃え移り全身に大火傷を負ひ死亡した。

平町日用品物價

白米一等一キロ一七〇、二等同一六五、三等同一六〇、白麥同一二〇、平麥同一四五、味噌一貫五〇〇、醤油一升三五〇、清酒同九〇〇、木炭

佛國マルソー會社元詰
生葡萄酒
マルソー・フランク・白 1.10
マルソー・ルージュ 赤
良品にして安價實行飛ぶが如し
西村屋藥局

樽九一貫五二〇〇、樽制同一五〇、雜木同一七〇、砂糖白百五三〇〇、赤同一〇〇、豚肉上同四〇〇、並同二〇〇、牛肉上同四〇〇、並同二〇〇

常設館便り

▽平 館「海のない港」小杉勇夏川静江主演、市川春代、菅井一郎助演「旗本退屈男」市川右太衛門、大江美智子主演「旅の人」光岡龍三郎、山田五十鈴主演
▽世界館「忍術浪華行脚」市川玉太郎、河内清三郎、結城重三郎主演「塙頭に灯あり」楠田實入社第一回主演「経血血笑記」尾上菊太郎、原駒子主演

謝近火御見舞

今曉近火の際は早速御見舞下され有難く奉深謝候一々拜趨御禮申上可き筈の處混雜中御尊名伺ひ洩れも可有之乍略儀以紙上御挨拶申上候

平町立町八十七番地
佐藤榮吉

本年は
黒靴の...王座

明るい政治に...黒靴
戦勝の誇りは...大塚の靴

安い靴は...大塚へ

靴原料暴騰に次ぐ暴騰なれど先値在庫品豊富故に値上せず
大塚支店製靴部
平町町 電七七七番

和洋銅鐵金物問屋

釜屋商店
諸橋久太郎
電話九九九番

貨切御用命

ゼヒ 三井自動車部へ
電話六八五番
乗合は 好間・合戸・澤渡方面行

かまぼこ 折詰仕出し

御惣菜用さつま揚、吉原揚
平町二丁目
藤市蒲鉾店
電話三〇五番

革靴自製部新設

注文靴。修繕靴
親切。丁寧。請合
高級ゴム長靴
五圓均一靴
各種靴類
マルトモビル内
菊地靴店
電話(呼)四三六

支那六神丸
特約店 平町五丁目 山野邊藥局

滋養、強壯劑として愈々好評
偉大なる藥酒「粟守酒」
朝の一盃は精力の源泉、晩の一盃は休眠の助力
粟守酒特約店 **大平屋藥店**
代價八日分壹圓九十錢 平町一丁目(電話四六二)

アンカ「コタツ」に徳用な木炭 代用 たどん

平町古鍛冶町杉ノ澤
製造元 **鈴木炭團製造所**
平町二丁目(警察署通り)
卸小賣所 **魚清水卸部**
電話四六七番
尙氷の御注文電話四六七番へ

油と味噌 合
山崎合名會社
福島縣平町
電話(營業部専用)一〇番
(一般用)二七番
振替東京一九七五五番
明治生命 磐城代理店 山崎與三郎

専門 内科一般

内科ハ何デモ診療致マス
呼吸器病バカリデハアリマセン
平町南町六五改(電話一八一番)
川井内科診療所
醫學士 川井重子
女醫 川井安子

平看護婦會

會長 清野キヨ
平町南町(電話三〇七番)
看護婦派出の需めに應じます